

平成27年度「地域における障害者スポーツ普及促進事業」

徳島県における進捗状況



徳島県 保健福祉部 障がい福祉課

障がい者スポーツに関するこれまでの取り組み

- 全国障がい者スポーツ大会への選手派遣
(2015紀の国わかやま大会参加選手21名、役員25名 計46名)
- 障がい者スポーツ大会（ノーマック・スポーツ大会）の開催
(全スポ予選会を兼ねる) (H27参加者 735名)
- 障がい者トップアスリートによる講演会 (H26～)
(これまで県内小・中・高・特別支援学校23校で開催、6,650人が聴講)
- 徳島県パラリンピック等育成強化選手(H26～)
(藤本聡選手(視覚・柔道)ほか3名を選考)
- 障がい者スポーツセンターの運営(H18～)
(年間利用者約8万人)



「徳島県スポーツ推進計画」 ～スポーツの力でとくしまの元気を創造～
(平成25年3月策定)

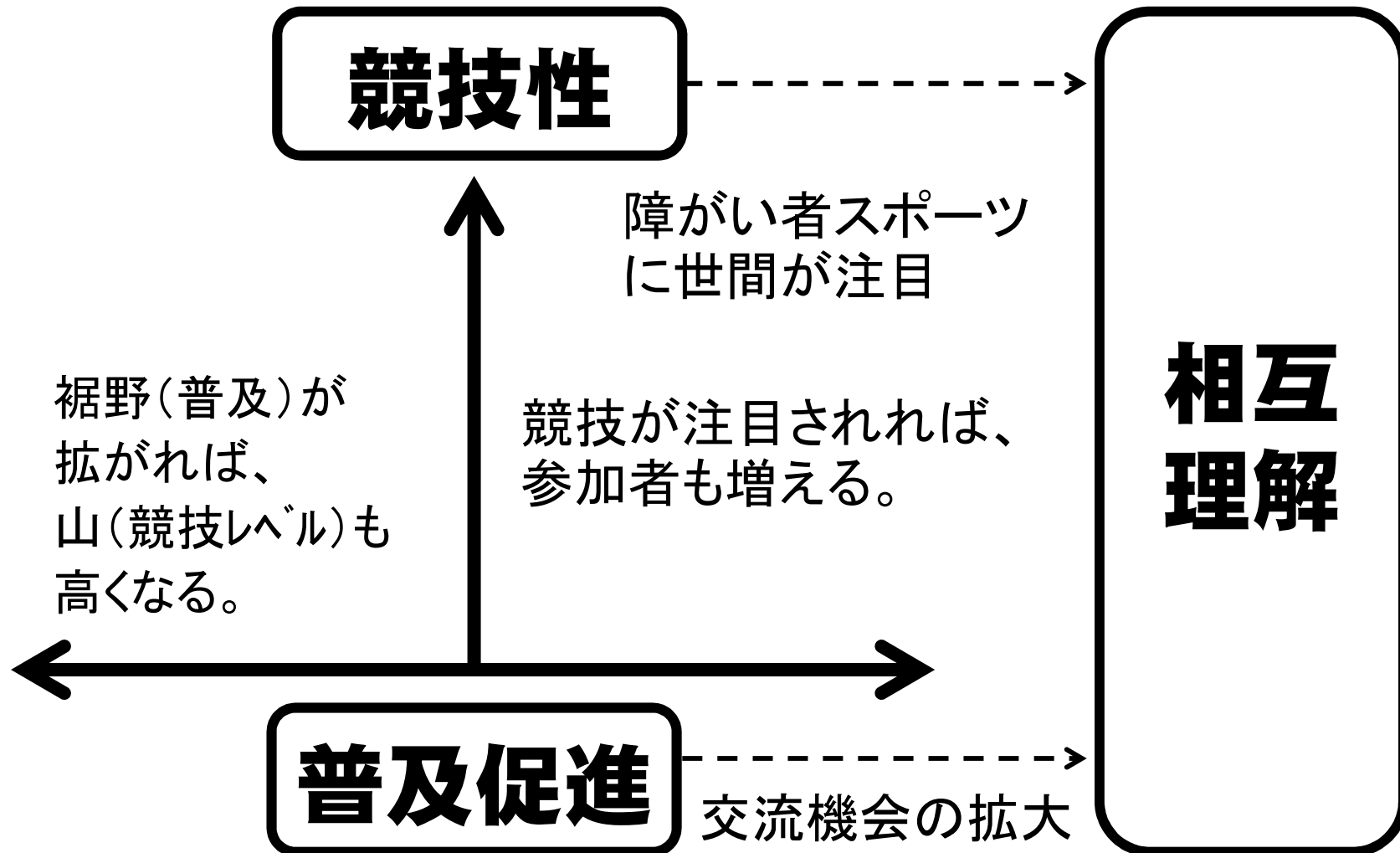
「徳島県スポーツ推進条例」 ～スポーツによる明るく豊かな県民生活の実現～
(平成26年3月施行)

「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」
～障がい者スポーツの振興・参加機会の提供・競技水準の向上 等～
(平成28年4月全面施行)

障がい者スポーツに関する視点

- 1 障がい者の「**健康の増進**」と「**社会参加活動**」としての障がい者スポーツ
(→ 伝統的な「障がい福祉」からのアプローチ)
- 2 東京パラリンピック開催を契機として
注目を集める「**競技**」としての障がい者スポーツ
(→ 新たな課題、スポーツ部局との連携)
- 3 スポーツが持つ「**情報発進力**」と「**交流機能**」
(→ 「共生社会の実現」の推進力)

3要素は相互補完的



当該事業にあたっては、

- 「実行委員会」は、
障がい福祉、スポーツ、教育等の関係者で構成
- 普及促進事業の「実践研究」は、
地域、種目、活動主体などで多様性を持たせるとともに、
障がいのある人とない人との交流の視点も加味

4つの実践研究

1 特別支援学校における実践研究

(児童生徒の障がい特性に応じたスポーツ種目を活用した地域交流事業)

2 指導者等が地域に赴いて開催する実践研究

(地域における障がい者のスポーツ参加促進に関する実践研究)

3 障がいのある人とない人が共に楽しむプログラムの開発

(ランニングプログラム)

4 児童と保護者が共に楽しみ、運動習慣を獲得する実践研究

(ふれあいスイミングと持久水泳認定会)

① 特別支援学校における実践研究 (児童生徒の障がい特性に応じたスポーツ種目を活用した地域交流事業)

実施主体：徳島県教育委員会（特別支援教育課）

【ねらい】

- 障がいのある人もない人も
共に楽しめる「ニュースポーツ」等を通じて、
スポーツの“楽しみや喜び”を伝え、
**子供達が生涯にわたって
豊かなスポーツライフを継続する力を育てる。**
- 特別支援学校と
地域の中学・高校・NPO法人団体等との**交流を図る。**

特別支援学校での取組

・ 3校で、6種目を実施

学校名	国府支援学校			池田支援学校		池田支援学校 (美馬分校)
種目等	グラウンド ゴルフ	ラグビー	フロッカー	雪合戦	ランニング	カローリング
協力団体 (講師等)	徳島グラウンド ゴルフ協会	徳島ラグビー 協会・ラグビー 部門	梅花女子大学 教授	三好市 観光課職員	鴨島病院 理学療法士	スポーツクラブ 美馬
対象	中学部生徒	中学部生徒	高等部生徒	中学部・ 高等部生徒	全校児童生徒	高等部生徒
取組状況	体験研修 (H27.10.14) 市民大会参加 (H27.10.18)	実技講習 (H27.12.11)	実技講習 (H27.12.11)	今後、 実施予定	教員への講義 (H27.10.20) ストレッチ及び ランニング (H27.10～) 講師による ランニング指導 (H27.11.30,12.9)	教室開催 (H27.10,11) 交流会 (H27.12.14) クラブ活動への 導入 (H28.1～)
指導形態	スポーツクラブ (放課後)	スポーツクラブ (放課後)	放課後活動等	放課後活動 等	放課後活動等	放課後活動等

【国府支援学校】

グラウンドゴルフ

生徒の運動能力に幅がある放課後スポーツクラブの種目として選択

- **運動が得意な生徒も、苦手な生徒も、興味を持って楽しめるスポーツ**
(練習後の生徒の声は、「またやりたい」「楽しい」)
- 実技講習により、**多くの教員が指導できるようになった。**
- 市民スポレク・フェスティバルの「グラウンドゴルフ大会」にも参加。
生徒が一般参加の方々とチームを組みプレイする中で、参加者と自然にコミュニケーションがとれるようになった。
(大会参加者からは、「若い人が参加したことで活気が生まれた」「元気が出た」との意見も)



タグラグビー

比較的運動能力が高い生徒を対象

- 運動能力の高い生徒は、運動量が多くゲーム形式の球技を好むが、新たな種目を経験した生徒は、ルールへの興味や
激しく動くタグラグビーのおもしろさを体感



フロッカー

(フロアーカーリング)

交流及び共同学習において、障がいの状況にかかわらず楽しめる種目として選択

- ストーンの予測できない動きが、意外性・偶然性を生み出し、**運動能力がゲームの勝敗を大きく左右しない**スポーツ。障がいの種別や能力差に関係なく、ゲームと一緒に楽しむことができる。
(投げたストーンに全員が注目し、チーム内で自然と友達を応援する場面が見られる。)
- 今後、他校との交流学习で活用するためには、**更なる用具の整備が必要**
(今年度事業で1セットを購入)



【池田支援学校・同美馬分校】

ランニング

体づくりのため、運動習慣をつけ、余暇活動や地域スポーツへの参加につなげるため、全児童生徒で取り組める種目として選択



←「ジャックナイフ・ストレッチ」を毎日全学部で実施
(10月から定期計測したところ、
12月現在で約7割の児童生徒の柔軟性
が高まった。)

○路線バスの便数から、帰宅時間を考慮すると、
自力通学生の練習時間の確保が難しい。



カローリング

運動の苦手な生徒が取り組める種目として選択

- 運動強度も軽く、ルールも簡単。
体を動かす楽しさ、競い合う楽しさを体験できた。
- 卒業後もスポーツ活動を持続するためには、地域の
スポーツクラブ等との交流を行い、**活動の場所を
学校から地域へつなげる取組み**が必要



② 指導者等が**地域に赴いて**開催する実践研究 (地域における障がい者のスポーツ参加促進に関する実践研究)

実施主体：徳島県社会福祉事業団ノーマライゼーション促進センター

【ねらい】

- 重度障がい者をはじめ、
誰もが参加出来る「ボッチャ競技」の県内での普及を図る。
- 特別支援学校のクラブ活動等へ
「トレーナー、理学療法士を派遣」し、基本的運動能力を伸ばし、
スポーツの普及、団体競技の育成に努める。
- スポーツを通じた社会参加の促進、健康増進等を図るため、
ニュースポーツを中心とした「**スポーツ教室**」を開催する。

ボッチャ競技の普及促進事業

○「ボッチャ講習会」開催実績

県央（11月14日(土) 16名・12月19日(土) 21名）
県西（11月22日(日) 0名・12月26日(土) 6名）
県南（11月 7日(土) 4名・12月23日(水) 17名）

* 県下3圏域で、11月以降、月1回程度開催する。

○「ボッチャ審判講習会」開催実績

・期日 11月29日（日）
・場所 鳴門・大塚スポーツパーク
・講師 日本ボッチャ協会
・参加者 障がい者スポーツ指導員ほか 16名

- 県内ではまだまだ普及していない種目のため、開催当初は参加者が少なかったが、普及のための講習会を重ね、参加者も増えつつある。（＝継続的な活動が重要）
- パラリンピック出場など、競技性を重視した場合、重度障がい者の競技であるため、介助者のペアなどの人材の確保が必要



出張スポーツ教室

○開催実績

県央 (11月21日(土) 17名・12月20日(日) 23名)
県西 (11月28日(土) 10名・12月 6日(日) 13名)
県南 (11月 8日(日) 0名・12月 5日(土) 49名)

(実施種目) 11月 ニュースポーツ
12月 フライングディスク

※月ごとにメニューを変更し、参加者からも好評

3県域で、11月以降、月1回程度開催

- 日頃、スポーツに親しむ機会の少ない障がい者にとっては、有意義
- 「在宅」の障がい者への周知方法が難しい。
- 在宅者では、若い人の参加も少ないが、施設からは幅広い年齢の参加がある。
- 在宅者は土・日曜日に集まりやすいが、施設利用者は平日に参加しやすいため、開催曜日の設定が難しい。



特別支援学校での選手育成事業

○スポーツ総合体力診断

- ・期 日 11月14日(土)
- ・場 所 鳴門渦潮高校
- ・参加者 国府支援学校高等部
バスケットボール部員10名

※H28.2.6に経過診断を実施予定

○トレーナー等の派遣(トレーナー協会より2名派遣)

- ・国府支援学校(11月19日(木)・12月17日(木))
スタティックストレッチ、体幹トレーニングなどの
プログラムを実施
- ・鳴門附属特別支援学校(11月20日(金)・12月18日(金))
サーキットトレーニングなどを実施

- 体力診断を行い、その結果に基づき、グループ分けし、プログラムを実施
体力測定により、個々の状況を把握でき、指導に活かせる。
- トレーナー派遣は、運動能力の向上につながっており、
学校からは「継続してほしい」との希望が出ている。
- 他校との交流試合は、選手の意欲の向上にもつながっている。



③ 障がいのある人とない人が**共に楽しむプログラム**の開発 (ランニングプログラム)

実施主体：徳島県(県民スポーツ課)

【ねらい】

- 地域社会の中で、
障がいのある人とない人が
共にスポーツを通じて
互いの心身の健康を高め合い、
交流できる環境を整備するため、

互いに支え合いながら街中を一緒に走る
新しい「ランニングプログラム」を
作成する。

The poster is titled "SLOW RUN in TOKUSHIMA". It is for an event on 2015.11.29 (Sun) from 9:00-13:00 at Koyomoto Kofu Park. The event is free of charge. The poster includes a section titled "WHAT'S SLOW RUN" which describes the event as a low-impact running activity for all ages and abilities, aimed at building a supportive community. It also lists rules, a schedule (9:00-9:30 registration, 9:40-10:00 warm-up, 10:00-10:20 start, 10:20-11:30 team-based running, 11:30-12:00 group photo, 12:30-13:00 group photo), and a profile of the organizers, Kenji Kikuchi and Takashi Takahashi.

Step1 ランニングプログラムの「開発」

(①コース設定→②スタッフ研修→③実施プログラム作成→④ユニバーサルマップ作成)

Step2 ランニングプログラムの「実践」

日時 平成27年11月29日(日) 10時スタート
場所 こども交通公園・新町川ボードウォーク
参加者 40名(うち、障がい者18名)
スタッフ 本部5名、ボランティア15名



徳島市内中心部の新町川を周遊する2Kmのコース。
5人一組のチームで途中5つの課題(①スリーボールス ②ブライント・キャ
ルソリレー ③ホックスシュート ④エアボール・ジャグリング ⑤ポールバランス)をク
リアしながらゴールを目指す。



Step3 プログラムの普及に向けた各種調査

(①当日アンケート→②追跡アンケート調査等の実施)

とても楽し
かった。
また、参加
したい。



【成果と課題】

- 事業を通じて、障がい者スポーツ推進施策の理解が深まるとともに、**関係機関との連携を図るきっかけ**ができた。
- 参加者にその後の運動機会の増加や意識の変化について、**追跡調査を実施中**
- 障がい者スポーツに**理解のあるスタッフの確保**や**総合型地域スポーツクラブ**等との**連携**が課題



④ 児童と保護者が共に楽しみ、運動習慣を獲得する実践研究 (ふれあいスイミングと持久水泳認定会)

実施主体：障がい者スポーツセンター

【ねらい】

- 生涯に渡ってスポーツに親しむ習慣を身につけ、意欲の向上を図るため、保護者と楽しくふれあいながら水泳の基礎を学ぶ。
- そこで培った能力を発揮できる場として、「持久水泳認定会」を開催する。



●ふれあいスイミング

場所 障がい者スポーツセンター温水プール
時間 午前9時20分から10時50分まで
期日 平成27年11月 8日(日) 17組23名
11月29日(日) 10組15名
12月20日(日) 17組27名
平成28年 1月10日(日) 16組23名
1月24日(日) 寒波により中止
2月 7日(日) 26組41名予定

【成果と課題】

- 回数を重ねるごとに、子どもたちの“やる気”を感じるようになった。保護者にも笑顔があふれ、**障がい児と保護者が楽しくふれあいながら水泳に取り組む姿**が見えた。
- 障がい者が**生涯にわたってスポーツに親しむため**には、スポーツ活動の場に行くまでの**アクセスの確保、介助者の確保**についても検討が必要
- 今後、**全参加者へのアンケート**を実施し、課題などを抽出する予定

●持久水泳認定会

場所 障がい者スポーツセンター温水プール
日時 平成28年2月11日(日) 10時から12時まで



実行委員会について

【構成メンバー】 11名

- 学識経験者 2名（大学教授等）
- 当事者団体 2名（身体障害者連合会・手をつなぐ育成会）
- スポーツ関係 3名（総合型地域スポーツクラブ・スポーツ振興財団・ノーマライゼーション促進センター）
- 行政・教育 4名（県民スポーツ課・障がい福祉課・特別支援教育課・体育学校安全課）



第1回（H27.9.18）

- ・受託事業の概要説明及び実践研究について
- ・障がい者スポーツの現状と取組みについて

第2回（H27.11.11）

- ・第15回全国障がい者スポーツ大会の結果報告
- ・「地域における障がい者スポーツ」についての取組みについて

第3回（H28.1.8）

- ・実践研究事業の中間報告
- ・障がい者スポーツの取組状況等の調査について

【主な意見】

- 3年間を見通したプランニングを持って事業を行うべき
- 実行委員会を設けることによって、今まで関わりのなかった関係者間とのネットワークが構築できる契機になる
- 障がい者スポーツの現状を把握するため、全国データと併せて、**県内の活動状況を調査**すべき
- 障がい者のスポーツ参加、スポーツを通じた障がいのある人とない人の交流、障がい者スポーツの競技性、この**3つをいかにバランス良く進めていくか**が課題
- **指導員の高齢化や不足**も問題
- 参加者自身がプログラムを創るという視点はどうか
- 実践研究の報告に併せて、事業実施者の視点から課題解決に向けた提言、意見があれば実行委員会としても役にたつ

「現状での整理」と「今後の展開」

- 関係者間の「顔の見えるネットワーク体制」の構築が出来つつある。
- 事業の立ち上げは順調であり、参加者の反応も良好
(アンケート調査等の本格的な課題の抽出・分析はこれから)
- 事業の進捗管理とともに、課題の検討を進めていく。
 - ・ 県内の活動状況の把握、情報発信について
 - ・ 障がい者スポーツ指導員の確保や活躍の場の創出
 - ・ 総合型地域スポーツクラブなど、地域活動拠点との連携のあり方
 - ・ 「活動の場を学校から地域へつなげる」「イベント型と教室型事業のコラボ」など、次の事業展開に向けた検討 等



今年度の「実践研究」の成果を発展させるとともに、課題解決方策の検証を進め、障がい者スポーツの更なる普及促進を図ってまいります。

